Hokkaido University News

北大時報

令和2年

2

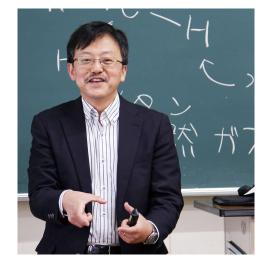
No. 791 February 2020

北海道大学一般入試の志願状況

お知らせ

・過半数代表候補者の決定



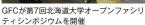




目 次

2







第2回日露産官学連携実務者会議

■ 全学ニュース

- 1 北海道大学一般入試の志願状況
- 2 AO入試合格者の発表
- 2 国際総合入試合格者の発表
- 3 Academic Fantasista 11月は7名の研究者が高校生に 向けた講義を実施
- 6 北大フロンティア基金
- 8 第7回北海道大学オープンファシリティシンポジウムを 開催
- 9 第7回北海道大学オープンファシリティシンポジウム特 別企画SD研修を学術交流会館にて開催
- 10 第2回日露産官学連携実務者会議を開催

■部局ニュース

- 11 令和元年度薬学研究院FD講演会を開催
- 12 情報基盤センターが「サイエンスレクチャー 2019 \sim プログラミングで何できる? \sim 」を開催
- 13 法学部に「法曹コース」を設置
- 13 湖南大学法学院一行が法学研究科・法学部に来訪
- 14 工学系部局で教育・キャリア企画室主催のFD講演会を 開催
- 15 令和元年度第2回農学研究院FD研修会を開催
- 16 農学院・農学部とシンガポール国立大学との「Joint Summer Programme in Japan and Singapore」 ~ Agriculture as a domestic culture & industry in a new globalization era ~を開催
- 17 農学院・農学研究院・農学部において「留学生新年会」 を開催
- 18 地球環境科学研究院・環境科学院でFD研修会を開催
- 18 済州大学と「観光とメディア」をテーマにした共同セミナーを開催

■諸会議の開催状況 19

- 学内規程 19
- お知らせ 20
- 人事 20
- 20 新任教授紹介



情報基盤センターが「サイエンスレクチャー 2019 ~プログラミングで何できる?~」を開催



湖南大学法学院一行が法学研究科・法学部 に来訪



Joint Summer Programme in Japan



農学院・農学研究院・農学部で留学生新年会

表 紙:Academic Fantasista 11月は7名の研究者が高校生に向けた講義を実施(関連記事3頁に掲載)

裏表紙:北の鉄道風景® 丹頂が飛来する駅

■全学ニュース

北海道大学一般入試の志願状況

令和2年度の本学一般入試の志願者は、前期日程5,474名、後期日程4,278名、合計9,752名となり、昨年度と比較すると 589名減少し、倍率は4.0倍となりました。

入学試験日は、前期日程が2月25日(火)・26日(水)、後期日程が3月12日(木)となっています。 各学部・学科等の志願者数は、次のとおりです。

(学務部入試課)

令和2年度北海道大学一般入試志願者数

| 日程 | 学部・学科等 | | | 募集人員 | 志願者数 | 倍 率 | 第一段階選抜 予告倍率 | 前年度 志願者数 | 前年度 倍率 | A O 入試・国際 総合入試の欠員 | 変更後の 募集人員 | 変更後の 倍率 |
|------|--------|----------|---|-------|-------|------|----------------|-------------|-----------|----------------------|--------------|---------------------------------------|
| | | 文氵 | <u>ξ</u> | 95 | 386 | 4.1 | 4.0 | 278 | 2.9 | 0 | 95 | 4.1 |
| | | | 数学重点選抜群 | 129 | 404 | 3.1 | 4.0 | 494 | 3.8 | 0 | 129 | 3.1 |
| | 総 | | 物理重点選抜群 | 233 | 659 | 2.8 | 4.0 | 701 | 3.0 | 0 | 233 | 2.8 |
| | 総合入試 | 理 | 化学重点選抜群 | 233 | 644 | 2.8 | 4.0 | 624 | 2.7 | 0 | 233 | 2.8 |
| | 盆 | 理系 | 生物重点選抜群 | 175 | 450 | 2.6 | 4.0 | 465 | 2.7 | 0 | 175 | 2.6 |
| | , , | | 総合科学選抜群 | 247 | 531 | 2.1 | 4.0 | 672 | 2.7 | 0 | 247 | 2.1 |
| | | | 計 | 1,017 | 2,688 | 2.6 | | 2,956 | 2.9 | 0 | 1,017 | 2.6 |
| | | 文学 | 学部 | 118 | 361 | 3.1 | 4.0 | 463 | 3.9 | | | |
| | | | 育学部 | 20 | 58 | 2.9 | 4.0 | 67 | 3.4 | | | |
| | | | 学部 | 140 | 279 | 2.0 | 4.0 | 420 | 3.0 | | | |
| 前 | | | 斉学部 | 140 | 376 | 2.7 | 4.0 | 378 | 2.7 | | | |
| 期 | | , | 医学科 | 97 | 366 | 3.8 | 3.5 | 307 | 3.2 | 5 | 102 | 3.6 |
| 前期日程 | | | 看護学専攻 | 60 | 144 | 2.4 | 5.0 | 147 | 2.5 | 0 | 60 | 2.4 |
| 7.33 | 学部別入試 | | 协射组士徒利学事办 | 28 | 114 | 4.1 | 5.0 | 75 | 2.7 | | | I |
| | 即即 | 医 | 保 検査技術科学専攻 | 28 | 100 | 3.6 | 5.0 | 76 | 2.7 | 1 | | |
| | 入 | 医学部 | 保 検査技術科学専攻 学 理学療法学専攻 科 体業専法学専攻 | 13 | 39 | 3.0 | 5.0 | 42 | 3.2 | | | |
| | 試 | 司 | 科 作業療法学専攻 | 13 | 34 | 2.6 | 5.0 | 68 | 5.2 | 0 | 13 | 2.6 |
| | | | 小計 | 142 | 431 | 3.0 | 0.0 | 408 | 2.9 | 0 | 142 | 3.0 |
| | | | 計 | 239 | 797 | 3.3 | | 715 | 3.0 | 5 | 244 | 3.3 |
| | | 品点 | 学部 | 30 | 110 | 3.7 | 6.0 | 107 | 3.6 | 2 | 32 | 3.4 |
| | | | 医学部 | 20 | 92 | 4.6 | | 113 | 5.7 | 2 | 34 | 3.4 |
| | | | | 105 | | | 6.0 4.0 | | | 6 | 111 | 20 |
| | | 小儿 | 全学部 | | 327 | 3.1 | 4.0 | 346 | 3.3 | | | 2.9 |
| | | ال مواب | 合計 | 1,924 | 5,474 | 2.8 | 6.0 | 5,843 | 3.0 | 13 | 1,937 | 2.8 |
| | | 文学部 | | 37 | 307 | 8.3 | 6.0 | 318 | 8.6 | - | _ | |
| | | 教育学部 法学部 | | 10 | 87 | 8.7 | 10.0 | 122 | 12.2 | - | | |
| | | | | 40 | 438 | 11.0 | 6.0 | 406 | 10.2 | | | |
| | | 栓 | 育学部 ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** | 20 | 256 | 12.8 | 10.0 | 220 | 11.0 | | | |
| | | | 数学科 | 13 | 99 | 7.6 | 6.0 | 121 | 9.3 | | | |
| | | | 物理学科 | 10 | 107 | 10.7 | 6.0 | 125 | 12.5 | | | |
| | | 理 | 化学科 | 23 | 123 | 5.3 | 6.0 | 177 | 7.7 | | | |
| | | 学部 | 生物科学科 生物学専修分野 | 10 | 61 | 6.1 | 6.0 | 82 | 8.2 | | | |
| | | ום | 生物科学科 高分子機能学専修分野 | 5 | 53 | 10.6 | 6.0 | 56 | 11.2 | | | · · · · · · · · · · · · · · · · · · · |
| | | | 地球惑星科学科 | 5 | 66 | 13.2 | 6.0 | 66 | 13.2 | 0 | 5 | 13.2 |
| | 学 | | 計 | 66 | 509 | 7.7 | | 627 | 9.5 | 0 | 66 | 7.7 |
| 後 | 学部別入試 | 压 | 保 放射線技術科学専攻 健 検査技術科学専攻 理学療法学専攻 | 7 | 79 | 11.3 | 6.0 | 47 | 6.7 | | | |
| 期 | 別 | 医学部 | 健 検査技術科学専攻 | 7 | 87 | 12.4 | 6.0 | 96 | 13.7 | | | |
| 後期日程 | 盆 | 部 | | 4 | 28 | 7.0 | 6.0 | 31 | 7.8 | | | |
| 7.1. | , , | | 計 | 18 | 194 | 10.8 | | 174 | 9.7 | _ | | |
| | | | 学部 | 8 | 134 | 16.8 | 6.0 | 174 | 21.8 | | | |
| | | 薬生 | 学部 | 24 | 254 | 10.6 | 6.0 | 241 | 10.0 | | | |
| | | | 応用理工系学科 | 34 | 277 | 8.1 | | 282 | 8.3 | 3 | 37 | 7.5 |
| | | 工 | 情報エレクトロニクス学科 | 38 | 301 | 7.9 | | 330 | 8.7 | | | |
| | | 学 | 機械知能工学科 | 30 | 234 | 7.8 | | 265 | 8.8 | | | |
| | | 部 | 環境社会工学科 | 49 | 384 | 7.8 | | 415 | 8.5 | 4 | 53 | 7.2 |
| | | | 計 | 151 | 1,196 | 7.9 | | 1,292 | 8.6 | 7 | 158 | 7.6 |
| | | 農生 | 学部 | 53 | 487 | 9.2 | 6.0 | 408 | 7.7 | | | |
| | | 獣図 | 医学部 | 15 | 107 | 7.1 | 6.0 | 117 | 7.8 | | | - |
| | | | 全学部 | 50 | 309 | 6.2 | 6.0 | 399 | 8.0 | | - | |
| | | | 合 計 | 492 | 4,278 | 8.7 | | 4,498 | 9.1 | 7 | 499 | 8.6 |
| | | | 総 計 | 2,416 | 9,752 | 4.0 | | 10,341 | 4.3 | 20 | 2,436 | 4.0 |

注1:「倍率」は、小数第2位を四捨五入。 注2:「第1次段階選抜予告倍率」は、当初募集人員に対するもの。

AO入試合格者の発表

令和2年度AO入試のうち、大学入試センター試験を課す医学部及び工学部の合格者発表が2月12日(水)に行われ、12 名が合格しました。

昨年12月10日(火)に合格者発表が行われた理学部、歯学部及び水産学部と合わせ、合格者数は34名となりました。

(学務部入試課)

令和2年度AO入試合格者数等一覧

| | | 学部・学科等 | 募集人員 | 志願者数 | 倍 率 | 合格者数 |
|-----|--------------|---------------------|------|----------|-----|--------|
| 理学 | 部地球惑 | 星科学科 | 5 | 22 (4) | 4.4 | 5 (1) |
| 医 | 医学科 | | 5 | 5 (3) | 1.0 | 0 (0) |
| 医学部 | 保健 | 看護学専攻 | 7 | 22 (10) | 3.1 | 7 (5) |
| 部 | 学科 | 作業療法学専攻 | 4 | 7 (3) | 1.8 | 4 (1) |
| 歯学 | 部 | | 5 | 8 - | 1.6 | 3 (0) |
| 工 | 応用理コ (応用で | Ľ系学科 マテリアル工学コース) | 4 | 4 (1) | 1.0 | 1 (0) |
| 学部 | 環境社会 | 会工学科 基盤学コース) | 4 | | - | |
| 水産 | 学部 | | 20 | 35 (5) | 1.8 | 14 (1) |
| | | 計 | 54 | 103 (26) | 1.9 | 34 (8) |

^{※ ()} 内の数字は, 道内高校出身者で内数

国際総合入試合格者の発表

令和2年度国際総合入試のうち、条件付合格者(国際バカロレア資格の取得を条件として合格していた者)の最終合格発 表が2月12日(水)に行われ、10名が合格しました。

昨年12月10日(火)に発表された合格者と合わせ、最終合格者は15名となりました。

(学務部入試課)

令和2年度国際総合入試合格者数等一覧

| 学部・学科等 | | 募集人員 | 志願者数 | 倍率 | 合格者数 (条件付合格者含む) | 最終合格者数 |
|--------|----|------|---------|-----|------------------------|---------|
| 総合 | 文系 | 5 | 17 (7) | 3.4 | 5 (4) [5 (4)] | 5 (4) |
| 入試 | 理系 | 10 | 17 (7) | 1.7 | 10 (5) [5 (2)] | 10 (5) |
| | 計 | 15 | 34 (14) | 2.3 | 15 (9) [10 (6)] | 15 (9) |

^{※ ()} 内の数字は, 女子で内数

^{※ []} 内の数字は、条件付合格者数で内数

Academic Fantasista 11月は7名の研究者が高校生に向けた講義を実施

平成24年度から実施している「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業、通称「Academic Fantasista (ア カデミックファンタジスタ)」では、北海道新聞社の協力のもと、高校生を対象とした講義を行っています。11月は6高校 に向けて7名の研究者が講義を実施しました。

(総務企画部広報課)

「メカノケミストリー:固体を混ぜる化学反応」

時: 令和元年11月6日(水) 13:20-15:05

■会 場:北海道札幌国際情報高等学校

■参加生徒: 2 年生 29名

■参加教員:伊藤 肇(工学研究院教授)

伊藤教授は, 分子について説明した後, 伊藤教授の 研究チームが開発した擦るだけで分子構造が変化する 「発光性メカノクロミズム」の仕組みを解説しまし た。



「化学を勉強しよう!」と 呼びかける伊藤教授



熱心に聞き入る高校生

「先端エレクトロニクスでエネルギーに貢献」

時:令和元年11月6日(水)13:20-15:05 \blacksquare

場:北海道札幌国際情報高等学校 ■会

■参加生徒: 2年生 31名

■参加教員:佐藤威友(量子集積エレクトロニクス研

究センター 准教授)

佐藤准教授は、自身の半導体材料の研究が、私たち を取り巻くエネルギー問題にどう寄与するのかについ て語りました。



半導体トランジスタの材料を手に取ってもらい ました



クイズを交えながら説明す る佐藤准教授

「絶対零度の世界」

時:令和元年11月6日(水)16:00-17:30

■会 場:北海道札幌北高等学校 ■参加生徒: 1,2年生 35名

■参加教員:網塚 浩(理学研究院教授)

網塚教授は、物質の性質を実験と理論の両面から追究していく「物性 物理学」を専門としています。液体窒素を用いた低温実験を通して、温 度や熱の概念をレクチャーしました。



講義後、個別の質問に答える網塚教授



極低温下での現象に驚く高校生たち

「それでもあなたは食べないの?」

■日 時:令和元年11月12日(火)16:00-17:10

■会 場:北海道札幌東高等学校

■参加生徒: 1,2年生 10名

■参加教員:信濃卓郎(農学研究院 教授)

信濃教授は、放射性セシウムによる福島の汚染土壌について研究して います。被災地域の食品に対する風評被害の例をもとに、安全の担保が 人々の購買意欲に繋がるのかというテーマで、高校生がディスカッショ ンを行いました。



福島での研究調査について話す信濃教授



グループでディスカッション

「健康情報の読み方」

時: 令和元年11月13日(水) 15:45-17:30

場:北海道小樽潮陵高等学校 ■会 ■参加生徒:北海道小樽潮陵高等学校

北海道岩内高等学校 小樽双葉高等学校 小樽市立菁園中学校

小樽市立望洋台中学校 計33名

■参加教員:玉腰暁子(医学研究院教授)

玉腰教授は、数年~数10年単位で対象者の生活習慣などを調査・観察 することにより、生活や環境と健康との関係を解析しています。身の回 りに溢れている健康情報から、正しい情報を読み解く手法について、グ ループワークを通して学びました。



健康情報を読み議論する高校生



グループワーク後にコメントする玉腰教授

「昆虫が超高速の運動を生みだす秘密」

時:令和元年11月27日(水)15:00-17:00

■会 場:北海道大学中央キャンパス総合研究棟2号館

■参加生徒:立命館慶祥高等学校 1,2年生 6名

National Junior College 12名 計18名

■参加教員:青沼仁志

(電子科学研究所附属社会創造数学研究センター 准教授)

青沼准教授は、昆虫のユニークな運動の仕組みについて研究していま す。高校生を本学に招き、昆虫の内部構造を撮影するのに使用するCT の見学などを行いました。立命館慶祥高校に加え、同高校提携校のシン ガポールの高校生も参加しました。



英語で講義を行う青沼准教授



昆虫の模型を観察する高校生

「宇宙空間での分子の進化と氷微粒子」

■日 時:令和元年11月29日(金)15:15-16:45

■会 場:北海道旭川東高等学校 ■参加生徒: 1,2年生 90名

■参加教員:渡部直樹(低温科学研究所教授)

渡部教授の研究室では、宇宙ではじめて水ができる過程を、実験で再 現することに成功しています。地球ではみられない、極低温ならではの 空間で起こる分子の進化について解説しました。



多くの高校生から質問がありました



一人ひとりに問いかけながら講義を進める渡部教授

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発 揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限 を付さない、息の長い募金活動をすることとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額(1月31日現在)

25,732件 5,015,162,537円

1月のご寄附状況

法人等4社,個人137名の方々から5,956,250円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈 について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

寄附者ご芳名(法人等)

ニューオータニイン札幌, 株式会社 丸ヨ池内

寄附者ご芳名(個 人)

| 合川 正幸 | 青木 伸 | 石井 哲夫 | 石塚 羊治 | 稲垣 雅則 井原 博 | 今井賢一郎 | 今井 久雄 |
|-------|-------|-------|-------|---------------------|-------|-------|
| 入澤 秀次 | 縁記 和也 | 大石 達哉 | 大島 久 | 大城 純市 太田 裕治 | 大原 正範 | 奥田 英信 |
| 小熊 祐子 | 小田原一史 | 小内 透 | 片桐 牧雄 | 加藤 千明 加藤 徳雄 | 金川 眞行 | 川端 環 |
| 河本 充司 | 岸本 佳則 | 草間 大志 | 小山 滋 | 斉藤 久 坂本 大介 | 佐々木義昭 | 佐々木亮子 |
| 佐藤 栄治 | 佐藤 紘一 | 佐藤 照明 | 佐藤 文雄 | 三升畑元基 サンチワラングール サロ: | 志済 聡子 | 杉江 和男 |
| 鈴木 貴之 | 瀬名波栄潤 | 髙橋 義則 | 橘 孝則 | 田中 一哉 谷岡 尚昭 | 玉澤 友基 | 月村 聡 |
| 土家 琢磨 | 土屋 裕 | 角田 慧 | 寺内 完 | 寺澤 睦 戸田 純子 | 豊田 威信 | 長島 義人 |
| 永田 晴紀 | 中塚 英俊 | 中西 孝 | 中野 平 | 中村 楯夫 中村 範一 | 難波 宏光 | 西川 治良 |
| 西田 実弘 | 西田 雄二 | 林 秀幸 | 樋田 京子 | 福田 文治 福永 悟郎 | 藤澤 裕子 | 本郷 隆二 |
| 本田 昭 | 前田 博 | 前田 裕貴 | 政氏 伸夫 | 松居 望 松田 健一 | 松原 謙一 | 皆川 一志 |
| 宮田 信幸 | 村上 昌樹 | 村上 幸夫 | 安丸 定則 | 山口 淳二 山下 憲昭 | 山田 博史 | 山田 幸雄 |
| 横井 成尚 | 横井 敏郎 | 横山 考 | 吉田 広志 | 吉田 学 米川 幸秀 | 米田 穣 | 渡邊 裕 |

銘板の掲示(20万円以上のご寄附)

(法 人)

ニューオータニイン札幌, 株式会社 丸ヨ池内

(個人)

角田 慧, 山田 博史

感謝状の贈呈



伊藤組土建株式会社 様(令和2年1月24日)

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。 https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書(兼・給与口座からの引落依頼書)」をダウンロードし、ご記入の上、 基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、基金事務室にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書(教職員現金用)」をダウンロードしてご記入いただくか、 基金事務室にもご用意していますので、基金事務室にお越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室(事務局・学内電話 2017)

(総務企画部広報課)

第7回北海道大学オープンファシリティシンポジウムを開催

創成研究機構グローバルファシリ ティセンター (GFC) では、大学の 研究を支える研究基盤の強化、研究環 境の充実をミッションとし、研究機器 の共用及び研究支援を推進していま す。1月23日(木)に本学における研 究基盤に関する活動報告及び今後の取 組みの方向性を探ることを目的に, 第 7回北海道大学オープンファシリティ シンポジウムを開催しました。

第7回を迎えた本シンポジウムで は、本学における研究基盤の充実と、 それを支える技術職員の目指すべき姿 をテーマに, 大学力強化推進本部との 共催で執り行われ、学内学外の教員、 事務職員,技術職員, URA等, 合わ せて105名が参加しました。

基調講演では, 文部科学省科学技 術,学術政策局研究開発基盤課課長補 佐の黒川典俊氏より「研究基盤政策に 関する最近の動き」という演題で、第 5期科学技術基本計画期間中の取組み

から見えてきた成果と課題及び政府に おける最新の研究基盤政策の動向及び 方向性について講演いただきました。

招待講演では、株式会社アーシブ代 表取締役の中山大輔氏に「これからの 人財育成とキャリアパス」という演題 で人材育成や人事評価、組織作りやコ ミュニケーションの重要性について講 演いただきました。

また, 研究組織単位での機器共用を 進めることを目的とした先端研究基盤 共用促進事業(新たな共用システム導 入支援プログラム)の最終報告では, ナノ物質科学・バイオサイエンス顕微 解析ユニット(MANBOU)代表の柴 山環樹教授(工学研究院)とOne Healthに貢献するオープンファシリ ティユニット (OHOU) 石塚真由美 教授(獣医学研究院)の2拠点から. 事業の成果について報告が行われまし

GFCの事業経過報告では、GFC事

業推進室, オープンファシリティ部 門、機器分析受託部門、試作ソリュー ション部門, 設備リユース部門, 国際 連携推進部門の1年間の報告と今後の 展望について、副センター長及び各部 門長より報告が行われました。

パネルディスカッションでは. 「大 学の研究基盤共用を支える技術職員の 重要性と将来展望について」をテーマ にモデレーターの網塚 浩GFCセン ター長の進行でディスカッションが行 われました。会場から多数の質問や問 題提起があり、本学技術支援本部の現 状や今後の技術職員の人事評価, キャ リアパスについて活発に議論が行わ れ、熱気に包まれたパネルディスカッ ションとなりました。

閉会の辞は. 先端生命科学研究院の 出村 誠教授により行われ、シンポジ ウムが締めくくられました。

(創成研究機構)



受付の様子



パネルディスカッションの様子



網塚 浩GFCセンター長による開会の辞



黒川氏による基調講演



中山氏による招待講演

第7回北海道大学オープンファシリティシンポジウム特別企画 SD研修を学術交流会館にて開催

創成研究機構グローバルファシリ ティセンターは、1月24日(金)に学 術交流会館にて, 第7回北海道大学 オープンファシリティシンポジウム特 別企画SD研修「アサーティブコミュ ニケーション研修-部局を超えたプロ ジェクトを成功させるコミュニケー ション術-」を開催しました。この SD研修は、創成研究機構グローバル ファシリティセンターと自然科学研究 機構分子科学研究所・大学連携研究設 備ネットワークとの共催で開催され. 学内外の技術職員やURAなど、21名 が参加しました。

講師は、1月23日(木)のオープン ファシリティシンポジウムにて招待講 演をなさった, 株式会社アーシブの代 表取締役の中山大輔氏に務めていただ きました。

本研修は4人~6人のグループワー ク形式で実施し、午前の部では「まず は相手をよく知る」というテーマで. 自己紹介ゲームや承認欲求に関する ワークショップを実施しました。

また、ランチミーティング(茶話 会)を開き,自然科学研究機構分子科 学研究所・大学連携研究設備ネット ワークの石山 修氏から、大学連携研 究設備ネットワークに関するプレゼン テーションを行っていただきました。 また, 大学連携研究設備ネットワーク について、各グループで意見交換を行 いました。

午後の部では「自分の意見を正しく

伝える」をテーマに、ABCDモデル ワークショップや, DESC法ワーク ショップを実施しました。

DESC法ワークショップでは, 口頭 だけで情報を伝えて地図を完成させる ゲームを行い、チームのまとまりと集 中力が必要でしたが、最終的にはすべ てのグループが、ミッションを達成す ることができました。

本SD研修の参加者一人一人が、今 回学んだアサーティブコミュニケー ションを現場で実践して, 今後, 部局 を超えたプロジェクトを成功させるこ とを大いに期待したいと思います。

(創成研究機構)



SD研修の様子



石山氏によるプレゼンテーション



DESC法ワークショップの様子

第2回日露産官学連携実務者会議を開催



集合写真

1月31日(金)に、筑波大学東京 キャンパスにおいて「第2回日露産官 学連携実務者会議」を開催しました。 この会議は、本学と新潟大学で共同採 択された文部科学省の平成29年度「大 学の世界展開力強化事業~ロシア等と の大学間交流形成支援~ (タイプB: プラットフォーム構築プログラム)」 の事業(HaRP事業)の取り組みの一 つです。昨年度行われた第1回目の会 議では約100名の日露交流を行う産官 学の関係者が一堂に集い、日露交流の 発展及び促進を目的として情報共有 し、意見を交わしました。第2回の今 回は, 日露交流を行う大学(日本の大 学19校, ロシアの大学30校) に加え, 文部科学省, 経済産業省, 企業·団体 等(29の機関・団体)から、昨年度を 大きく上回る約160名が参加しました。

第1部の「大学の世界展開力強化事 業採択校活動状況報告会」では、本学 の笠原正典理事・副学長及び吉岡 路 文部科学省高等教育局高等教育企画課 国際企画室専門官の挨拶から始まり, 続いて平成29年度「大学の世界展開力 強化事業(ロシア)」の採択大学8校 (7事業)から、これまでの活動の成 果や課題の紹介及び質疑応答が行われ ました。

また, 日露大学協会と連携した委員 会で日露の単位互換のガイドライン策 定等について検討する日露人材交流委 員会や, 学生の立場から日露交流を考 える日露学生連盟の活動報告も行わ れ、HaRP事業における日露交流に対 する取り組みを多角的に, 多くの方に 知っていただくことができました。

第2部の本会議においては、宮川清 巳外務省欧州局日露経済室・ロシア交 流室主席事務官, 靍田将範経済産業省 欧州課長, Igor TITOV在日ロシア連 邦大使館参事官兼ロシア連邦交流庁駐 日代表. Pvotr PAVLENKO在日ロシ ア連邦通商代表部首席代表の挨拶に続 いて,一般社団法人ロシアNIS貿易会 (ROTOBO) 及び独立行政法人日本 貿易振興機構(IETRO)による日露 経済協力と外国人材採用を見据えた取 り組みについての発表があった後、本 学の瀬戸口剛工学研究院長から、2019 年度の専門セクションにおける地域に 根ざした産官学連携状況についての全 体説明が行われました。

また、ロシア側大学4校より、ロシ ア各地(ウラジオストク, サンクトペ テルブルク, サハリン, イルクーツ ク) の日本関係地域コンソーシアム紹 介と、日本側大学3校より日本各地 (北海道地域, 新潟地域, 石川地域) のロシア関係地域コンソーシアムにつ いて発表があり、 日露各地での様々な 分野において,特色のある取り組みが されていることをうかがうことができ ました。特に北海道地域コンソーシア

ムについては, 本学北極域研究セン ターの大塚夏彦教授から、最近の活動 状況について発表があり、今後も北海 道・札幌市,企業等と連携し、ロシア の大学・研究機関とのネットワークの 拡大及び研究・教育分野における交流 と協働を進めていくことが述べられま した。

その後、「2020年~2021年の日露地 域交流年における, 地域単位での日露 経済協力と人材育成の展望 | について のパネルディスカッションが行われ, 本学の瀬戸口工学研究院長をモデレー ターとして、日露合わせて6名のパネ リスト, コメンテーターとともに, 意 見交換がなされました。特に人材育成 においては、日露双方の学生インター ンシップについて議論がなされ、受入 先企業や地域社会にとってのメリット について話し合いが行われました。ま た、既にインターンシップを導入して いる大学からビザ取得方法や、日露に おける仕事観の相違について具体的な 情報を共有することができました。

会議の中では, 既存の日露交流の深 化や新たな交流の形成を図るため、自 由交流会の時間を多く設けたり、ポス ター展示も行いました。

また会議前日には、日本側大学16 校・ロシア側大学5校が参加し、日露 大学間の単位互換制度について議論し た日露人材交流委員会幹事会や, 日本



笠原理事・副学長による開会の挨拶



会場の様子



パネルディスカッションの様子

側関係者18名・ロシア側関係者27名が 参加し、各事業内容の発表を行った先端技術専門セクション会議、日本側大学7名・ロシア側大学5名が参加した日露学生連盟打合せが行われました。 この会議を契機として培われた、産 官学連携に携わる実務者同士のネット ワークが、今後の日露交流を発展させ ることを期待します。

(国際部国際連携課)



活動報告を行った学生連盟のメンバー

■部局ニュース

令和元年度薬学研究院FD講演会を開催

1月29日(水),薬学部において,令和元年度第2回FD講演会を開催しました。ベネッセグループ株式会社進研アド教育改革支援部の小泉隼人氏を講師にお招きし,「THE世界大学ランキング~ルール解説と評判調査からみた北海道大学~」と題して講演いただきました。

世界大学ランキングにおいて、日本はランクイン大学数が米国(172校)に続いて第2位(110校)ですが、トップ100位以内に入った大学は東京大学(36位)と京都大学(65位)のみで、16か国中14位と低迷し、中国、韓国に抜かれていること、本学は日本では9位、世界では401~500位であることについて説明がありました。次に、評価項目は、①教育(30%)、②研究(30%)、③被引用論文(30%)、④国際性(7.5%)、⑤産業界からの収入(2.5%)で、合計100%となってお

り、主要な指標として、教育では、博士号取得者数/教員数、研究では、論文数/研究者数、研究費収入/研究者数、被引用論文では、対象論文引用数/対象論文数、国際性では、外国籍教員数/国内教員数、海外留学生数/国内学生数、国際共著論文数/論文数、産業界からの収入では、産業界研究費収入/研究者数などが適用されていることについて解説されました。なお、最大の指標は評判調査で、教育(15%)、研究(18%)との説明により、ブラン



講師の小泉氏

ド校が強さを発揮することがわかりました。ブランド= (コンテンツ) × (コミュニケーション) で、コンテンツとは他大学と差別化した自学の特長、強みで、コミュニケーションとは、エビデンスに基づき、誠実な情報公開によって信頼される、理解されることなどを説明いただきました。

今回の講演では多くの質問があり、 教員の関心の深さが感じられました。

(薬学研究院)



講師の説明を熱心に聞く参加者

情報基盤センターが「サイエンスレクチャー2019~プログラミングで 何できる?~| を開催



完成したプログラムとロボットを手にした参加者

12月26日 (木). 情報基盤センター は、創成研究機構の一構成組織として 同機構と読売新聞北海道支社による連 携協定講座「サイエンスレクチャー」 の第4回目「プログラミングで何でき る?」を情報基盤センター北館で開催 し、抽選で選ばれた31人の小中高校生 が参加しました。

開会式では, 西井準治創成研究機構 長から「将来、様々な分野において、 コンピュータで何かを制御するという 体験が重要になる。一生懸命に取り組 んでほしい。」との挨拶に続き、西嶌 一泰読売新聞北海道支社長から「身の 回りの物の多くが, あらかじめ人間が プログラムした指示に従って動いてい る。科学のおもしろさを感じてほし い。」と挨拶がありました。

第1部は布施 泉教授から「ロボッ トでプログラミング」と題し、プログ ラミングの基本的な仕組みについての レクチャーの後、野口孝文訪問研究員 (釧路工業高等専門学校名誉教授) が 開発した「お絵かきロボット」を用 い、本学学生4名も支援しながら、基 盤のスイッチ操作でプログラムを作り 自走させて矢印を描くプログラミング 体験を行いました。第2部は岩下武史 教授から「スーパーコンピュータは何 が"スーパー"なのか」と題し、一般 的なコンピュータとの違いや本学にお けるスーパーコンピュータを活用した 研究事例等についてのレクチャーの 後、スーパーコンピュータ「グラン・ シャリオ」等を見学し、参加者は約 1,000台のコンピュータが並ぶ様子に

圧倒された様子でした。

閉会式で、棟朝雅晴センター長は 「情報基盤センターは、プログラミン グからスーパーコンピュータやクラウ ド等様々な研究をしている。今日の体 験が将来、本センターや本学で研究し てみたいというきっかけになったら嬉 しい。」と挨拶し、参加者に認定証書 を手渡しました。

終了後のアンケートでは,「プログ ラミングへの関心が高まった(小 6)」、「ロボットのプログラム作成は 難しい部分があったけれど、難しさ も、できるようになった時の嬉しさも プログラミングの魅力だと感じました (中2)」、「今回の経験を通して、北 大に行きたいという気持ちが強くなり ました。北大のスパコンを初めて見 て、こんなにたくさんの計算ノードが つまっているとは思っていなかったで す。もし入ることができたら、パソコ ンやCPUなどについて詳しく知りた いです(高2)」等、本学や科学への 関心が高まったとの声が多く, 本イベ ントへの満足度が高かった様子がうか がえました。

(情報基盤センター)



西井創成研究機構長による挨拶



参加者にアドバイスする野口訪問研究員



西嶌支社長による挨拶



岩下教授によるレクチャー



布施教授によるレクチャー



棟朝センター長による挨拶

法学部に「法曹コース」を設置

現在法学部には、実務法曹をはじめ とする法律の専門家を育成するための 「法専門職コース」と, 研究者や民間 企業, マスコミ, あるいは国際公務員 といった多様な進路を目指す「総合法 政コース」という2つの履修コースが 設けられています。この度2020年度 に, 法専門職コース内に, 実定法をイ ンテンシブに学んで3年生終了時に卒 業して法科大学院の2年課程に進学す る「法曹養成プログラム」(いわゆる 法曹コース)を設けることとなりまし た。この眼目は、法学部と法科大学院 を5年一貫教育とすることで、優秀な 学生のために実務法曹への途をさらに 広げることにあります。本学法科大学 院(法学研究科法律実務専攻)では、

これまでも優秀な学生に対して、いわゆる飛び級入学を認めることで、「学部3年+法科大学院2年」という5年一貫教育の機会を用意してきましたが、飛び級入学の場合、学部が「中退」となることが障害となっていました。これに対して、「法曹養成プログラム」の場合、一定の成績基準を満たせば、3年終了時に大学を「卒業」することができ、このような障害はなくなります。

法曹コースを設置する場合,法科大学院と学部が連携協定を締結し,文部科学大臣の認定を受ける必要がありますが,本学法科大学院は,本学法学部のほか,北海学園大学法学部とも連携協定を結び,こちらの認定も受けたこ

とから、北海学園大学からも優秀な学 生を迎えることとなります。

「法曹養成プログラム」に合わせ、 法学部では、総合法政コース内にも3 年終了時に卒業して研究大学院(法学研究科法学政治学専攻)に進む「大学院進学プログラム」を設けることとしています。学部3年終了時卒業は、制度的には可能であるものの、これまであまり活用されてきませんでした。しかし、優れた能力と高い意欲のある学生にとって魅力ある制度であり、喫緊の課題である高度人材養成のさらなる展開に向けた1つの試みといえます。

(法学研究科・法学部)

湖南大学法学院一行が法学研究科・法学部に来訪

12月3日(火)から9日(月)にかけて、中華人民共和国湖南大学法学院の易駱之副教授を団長とする学生訪問団が法学研究科に来訪されました。

湖南大学は、北宋時代の中国四大書院の1つである岳麓書院に淵源を持つ由緒のある大学で、岳麓書院の創立は976年(北宋の開宝年間)にまで遡ります。湖南省は毛沢東の生誕の地として有名ですが、湖南大学は同省随一の大学でもあります。

今回来訪したのは、易先生をはじめとする引率者3名、学部学生21名の学生訪問団であり、引率者の1人である鄧乾坤助理教授は、いわゆる中国5,000人プロジェクトの一員として法学研究科に留学し、博士号を取得した俊英です。一行は札幌に滞在して、本学はもとより、裁判所を訪れるなどして見聞を広げ、交流を深めるとともに、12月7日(土)には、湖南大学法学院と法学研究科とで合同研究会を開催し、5名の学生が先端的な問題について報告を行い、活発な議論が行われました。

なお、12月5日(木)には、引率者

である3名の方々と池田清治法学研究 科長、会沢 恒教授(国際協力委員会 世話人)、徐准教授(留学生委員)が 懇談し、今後さらに交流を深めるとと もに、部局間交流協定を目指すことと なりました。

意見交換は大変和やかに進み, 本学



懇談会



湖南大学法学院 学生訪問団

の美しいキャンパスを満喫していただきました。今後の両学部の一層の交流 促進のため、非常に有意義な機会となりました。

(法学研究科・法学部)



合同研究会の様子



裁判所訪問

工学系部局で教育・キャリア企画室主催のFD講演会を開催

工学院・工学部教育・キャリア企画室では、2つのFD講演会を開催しました。1つ目は、飲酒事故防止を目的に教職員 と学生を対象にしたもの、2つ目は、若手教員のキャリアパスに役立てることを目的としたものです。

(工学院・工学部)

1. 令和元年度工学部FD·学生向け講演会

「ソムリエに学ぶお酒との上手なつきあい方」

開催日:令和元年11月28日(木)12:15~12:50

講 演 者:シニアソムリエ 水口 聡氏 (ワインバー経営)

開催概要: 学生が飲酒する機会が増える時期ですが、泥酔等のトラブルが例年に も増して報告されています。本講演には、ソムリエの上級資格である シニアソムリエをお持ちで、ススキノでワインバーを営む水口氏を講 師にお招きし、アルコールを扱うプロフェッショナルとして、アル コール事故やハラスメント, 泥酔対策から, 飲み会を楽しく安全に行 うためのお酒との上手な付き合い方、またその指導法についてお話い

ただきました。

講演では、実際にアルコール耐性確認キットを配付し、全参加者が実 際に自身のアルコール耐性を確認しました。

当日は、50名以上の参加があり、熱心な質問や次回の開催を希望する 声が寄せられました。

今回の講演会を期に、来年度の工学部2年次進級ガイダンスで飲酒に ついて取り上げることとなりました。



講演するシニアソムリエ水口氏

2. 令和元年度教育・キャリア企画室FD「大学教員のキャリアパス」

開催日:令和元年12月20日(金)12:15~12:50

講 演 者: 苫小牧工業高等専門学校長 小林幸徳氏 (元工学院長)

開催概要:本FD講演会は、元工学院長の小林幸徳苫小牧工業高等専門学校長を 講師にお招きし、おおむね40歳以下の若手教員向けに、助教→准教授

→教授とキャリアアップしていく過程において考えるべき事柄を経験 者の先生から語っていただく企画の第一弾として、開催しました。

当日は、若手教員のみならず幅広い層から24名の教員が参加し、貴重 な経験談を伺うことが出来、大変有意義な機会となりました。

今後、工学系部局では、同様の企画を継続してシリーズ化していく予 定です。



講演する小林苫小牧工業高等専門学校長

令和元年度第2回農学研究院FD研修会を開催

農学研究院では、12月26日(木)、 農学部において、令和元年度第2回 FD研修会を開催しました。西邑隆徳 農学研究院長の開会挨拶の後、「キャ ンパスにおけるこころのケア」をテー マに、学生相談総合センター副セン ター長・学生相談室長の齋藤暢一朗准 教授による講演会が行われました。 ベーシック編とアドバンス編とに分け られた講演では、メンタルヘルスの正 しい知識やスキルについて説明いただ きました。

ベーシック編では、部下や同僚、学 生を支えるための大切な視点としての 一次、二次、並びに三次予防について 解説いただきました。一次予防とは. 心身の不調などの問題発生を予防する ことであり、社会的なつながりの認識 やポジティブなコミュニケーションが 大切であることを学びました。心身の 不調を周囲が早期に発見し支援する二 次予防に関する紹介では、心身不調の サインとはどのようなものか, 心身に 不調をきたした人を専門家に引き合わ せるためのスキルについての説明があ

りました。さらに治療や回復に専念で きるような環境づくり (三次予防) の 重要性についても知ることができまし

アドバンス編では、モラルハラスメ ントについて解説いただきました。攻 撃性を隠した精神的な嫌がらせである モラルハラスメントは、パワーハラス メントやセクシャルハラスメントとは 異なり、周囲に認知されにくいこと、 一方で、うつ症状の陰にはモラルハラ スメントが潜んでいることが多いこ と、モラルハラスメントへの対応など について説明いただきました。

最後に、一昨年8月に各相談窓口が 包括的に統合された「学生相談総合セ

ンター」の紹介がありました。セン ターの組織体制等教員が学生相談総合 センターについての情報を得ること は、メンタルヘルスに不安を抱える学 生に対してセンターを紹介する際に重 要です。

参加した教員35名,事務職員2名が 今回の講演会を通じて得たメンタルへ ルスの正しい知識やスキルは、今後の 学生とのつながりや職場環境の改善に おいて貴重なものになると思います。 講演いただいた齋藤准教授には、この 場を借りて改めてお礼申し上げます。

(農学研究院)



西邑農学研究院長による開会挨拶



齋藤准教授の講演の様子

農学院・農学部とシンガポール国立大学との「Joint Summer Programme in Japan and Singapore \[\simeq Agriculture as a domestic culture \] & industry in a new globalization era ~を開催

農学院・農学部では、8月5日(月)~ 10日(土), 12月9日(月)~13日(金) に、シンガポール国立大学との「Joint Summer Programme in Japan and Singapore」を実施しました。このプ ログラムは、昨年度から始まったもの で,海外ラーニング・サテライト事業 にも採択されています。

[Joint Summer Programme in Japan and Singapore」は、両大学で 開催する約1週間の現地開催プログラ ムとその準備・予習である1週間の E-learningが1セットになり、計2 セットをそれぞれ札幌とシンガポール で行うように構成されたシャトルプロ グラムです。今年度のプログラムには 農学院・農学部の学生10名とシンガ ポール国立大学理学部の学生12名が参 加しています。今年度は、両校の授業 に可能な限り支障が無いように8月に 札幌で、12月にシンガポールで、それ ぞれ現地プログラムを実施しました。

このプログラムでは、地理、歴史、 気候などの環境条件を元に地域に積み 重ねられた文化であり産業である農業 を再度見つめ直し, 文化的背景の異な る国同士が食料生産、加工や流通技術 などを学び、農業や食への総合的な理 解を相互に深め、グローバル化時代に おける農業のあり方を考える内容と なっています。具体的には①農業、食 産業の歴史と文化 ②水資源事情と環 境対策 ③植物工場とIT農業 ③遺伝子 組み換え作物 ④国の経済を支える食 産業 ⑤食品流通 ⑥食産業に関わる人 材育成について学び、両国の事情を比 較しながら農業や食についての理解を 深めました。

今回実施した札幌プログラムでは, 歴史・文化・生産学習として北海道博 物館及び北海道開拓の村の見学、本学 札幌キャンパス農場でジャガイモの収 穫実習と農業副産物利用としての稲わ らからの"わらじ"製造実習、加工・

マーケティング学習として札幌市中央 卸売市場の見学, 先進農業学習として ロボットトラクター実演の見学、そし て、 泥炭地を耕作地へと転換した歴史 と技術、水資源事情及び環境対策の学 習として桂沢ダム, 石狩川頭首工, 篠 津中央土地改良区の見学などを行いま した。

また、12月のシンガポールプログラ ムでは、狭い国土という短所を乗り越 えるべく, 国外に大規模農園を経営す るプランテーションを活用したシンガ ポールの農業事情を学び、また食品の 多くを輸入に依存しているため、食の 安全に対する先進的な取り組み、人材 育成について学びました。特に、"30 by 30"と銘打った2030年までに栄養 自給率 (Singapore's nutritional needs) を30%にするという国の政策について など、熱い講義と議論がなされまし た。シンガポールは水産業も重視して おり、養殖漁業、特に深海養殖技術を 使って"30 by 30"の実現に寄与しよ うとしています。日本の食料自給率は 40%であり、農地がほとんど無いとも 言えるシンガポールに追い越される事 態に陥るかもしれません。

学生は終日、教室においてディス

カッションを交えた座学, フィールド でのアクティブラーニング等に参加 し、さらに、座学やフィールド見学・ 実習のレポートが課されました。グ ループ発表では両大学の学生を混成し た2~3名を1組としたグループが, 自ら選択した農業に関する課題への問 題解決方法の提案を, フィールド実習 で得た経験をいかして発表しました。 参加者に分かりやすく. 魅力的なプレ ゼンテーションになるような努力が多 く見られた発表会で, 内容も非常にレ ベルの高いものでした。

両大学の学生は札幌やシンガポール での生活やグループ活動の中で大いに 学び、タイトなスケジュールの中で も、学生主体のジンギスカンパーティ の開催等で大いに交流も深めました。

今回、シンガポールの見学先である 市民自然農園に, 昨年度の同プログラ ムの参加学生Euniceさんが就職して おり、北海道大学のロゴ入りTシャツ を着て待っていてくれました。このプ ログラムの経験が生かされており、そ の広がりが感じられます。

(農学院・農学部)



昨年度のプログラム参加者Euniceさん(中央)と、シンガポール国立大学のプログラ ム担当教職員(両端),本学のプログラム担当教員(左から2番目,右から2番目)

農学院・農学研究院・農学部において「留学生新年会」を開催



パフォーマンスと料理に携わった中国からの留学生

農学院では、留学生主催で母国の料 理を提供する新年会を毎年行っていま す。34回目となる今年は1月10日(金) に農学部で開催しました。

農学院・農学研究院・農学部に在籍 する約20カ国の留学生やその家族、教

職員や日本人学生、他学部の留学生 等,総勢190人ほどが参加する盛大な 新年会となりました。

料理には一日がかりで準備したもの や、具材を東京から取り寄せた本格的 なものまでありました。中国、韓国、

スリランカ、インドネシア、バングラ デシュ及びナイジェリアの色とりどり の料理が盛りだくさんに並ぶ中, 楽し く新年を祝うとともに、各国の食文化 について理解が深まりました。

後半には各国の留学生と日本人学生 による余興が行われました。バングラ デシュ・スリランカ留学生による歌, 中国留学生によるダンス、インドネシ ア留学生によるシントレンダンス (ジャワ島北海岸地域に由来するダン ス) 等が、さらに、日本人学生"縁" によるYOSAKOIソーランも披露さ れ、多士済々な学生達のパフォーマン スに会場は大いに盛り上がりました。

(農学院・農学研究院・農学部)



トッポッキを振る舞う韓国からの留学生



自国の料理を振る舞うバングラデシュからの留学生



留学生代表挨拶(ナイジェリアからの留学生)



スリランカからの留学生とスリランカの料理を楽しむ日本人学生



インドネシア人留学生によるダンス



日本人学生"縁"による演舞

地球環境科学研究院・環境科学院でFD研修会を開催

地球環境科学研究院・環境科学院で は、1月9日 (木)、FD研修会「部局 における危機対応・業務継続につい て」を、環境科学院講義棟において開 催しました。本FD研修会は、昨年8 月に部局版危機対応・業務継続マニュ アルを策定したことを踏まえ、震災時 の部局における安全対策の啓発活動の 一環として開催したものです。

当日は、本研究院・学院等の教職員 46名の参加のもと、本学の産学・地域 協働推進機構の山﨑淳一郎教授(日本

危機管理士機構員・危機管理士1級) を講師としてお招きし、講演いただき ました。

大原 雅研究院長・学院長からの冒 頭での挨拶の後、山崎教授の講演にお いて、「なぜマニュアルが必要か?」、 「災害への備え」、「危機と危機対 応」,「マニュアルチェックリスト」, 「状況判断の定石」及び「訓練による マニュアルの検証」について、実際に 発生した災害事例やゲームを利用した マニュアルの検証方法の紹介などを交 え、大変わかりやすい説明がありまし た。その後、事前に確認いただいてい た本研究院・学院で策定したマニュア ルから、課題を抽出していただきまし た。最後に質疑応答が行われ、有意義 な研修会となりました。

本研究院・学院では、本研修会で得 られた今後の課題を参考として, 昨年 策定したマニュアルの見直しに取組ん でいく予定です。

(地球環境科学研究院・環境科学院)



冒頭の挨拶を行う大原研究院長・学院長



講演を行う山﨑教授



会場の様子

済州大学と「観光とメディア | をテーマにした共同セミナーを開催

1月10日(金),メディア棟で、本 学と済州大学(韓国)の共同セミナー 「観光の影/影の観光―済州・北海道 のオーバーツーリズムとダークツーリ ズム―」を開催しました。

過剰な観光客の増加でさまざまな弊 害が起きる「オーバーツーリズム」や 戦争・災害など悲劇の現場をたどる 「ダークツーリズム」は、近年議論が 盛んになっている分野です。本セミ ナーでは、当院が掲げる「観光とメ ディアの融合」の観点からそれぞれの 事例を報告し、双方の状況について理 解を深めました。

済州大学がある済州島は4・3事件 (1948年) で島民の多くが犠牲となっ た悲劇の島ですが、恵まれた自然環境 と観光振興策によって韓国屈指の観光 地に変貌しました。観光開発による経 済的恩恵を享受する一方,人口60万人 の島に年間1,500万人が訪れることで

地域住民と観光客とのトラブルも多発 しています。そのかたわら、観光産業 の光の影に埋もれてきた虐殺の歴史の 現場にも徐々に訪問客が増えていま

本セミナーでは, 済州大学のホン・ ソンファ教授による基調講演「オー バーツーリズムと観光受容力の理解」 のあと、 済州地域メディアのオーバー ツーリズムに関する報道の分析, 4・3 事件をめぐるダークツーリズムの現状 と課題を示した発表が行われました。 本学からは、外国人観光客が急増する ニセコの事例と、東アジアにおける監 獄博物館の表象の比較報告がありまし

世界で乗客数が多い航空路線の1位 はソウル~済州間、3位は羽田~札幌 間です。それぞれ国内有数の観光地で ある済州島と北海道の研究者が、共通 の課題について議論することの意義を

確認した有意義なセミナーとなりまし た。

主催:メディア・コミュニケーション研究 院/東アジアメディア研究センター, メディア・ツーリズム研究センター

共催: 済州大学/社会科学部言論広報学科, 経商学部観光経営学科

(メディア・コミュニケーション研究院)



ホン教授の講演

■諸会議の開催状況

役員会(令和2年1月8日)

案・「研究力の分析に資するデータ標準化の推進に関するガイドライン」に係る内閣府からのデータ提供依頼について

協議事項・中期目標・中期計画の変更について

- ・大学院工学研究院の部門再編について
- ・全学運用教員の措置について

報告事項・令和2年度医学部臨時定員増に係る意見伺い結果について

・令和2年度運営費交付金等(予定額)について

教育研究評議会(令和2年1月15日)

題・総長選考会議における選考方法等について

- ・中期目標・中期計画の変更について
- ・大学院工学研究院の部門再編について

報告事項・令和2年度医学部臨時定員増に係る意見伺い結果について

- ・全学運用教員の中間評価の報告について
- ・学生の懲戒について
- ・寄附講座等の更新について
- ・令和2年度運営費交付金等(予定額)について
- ・令和元年度補正予算について

経営協議会(令和2年1月24日)

題・中期目標・中期計画の変更について

報告事項・第4期中期目標期間における指定国立大学法人の公募について

- ・北海道大学の産学連携活動について
- ・第3期中期目標期間における財政シミュレーションの見直しについて
- ・令和元年度補正予算について
- ・令和2年度運営費交付金等(予定額)について
- ・東京五輪競技マラソン札幌開催に係る情報提供について

その他・財務レポート2019について

役員会(令和2年1月21日)

案・中期目標・中期計画の変更について

- ・大学院工学研究院の部門再編について
- ・クロスアポイントメントの適用について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■学内規程

国立大学法人北海道大学創成研究機構化学反応創成研究拠点規程の一部を改正する規程

(令和2年2月1日海大達第4号)

本学創成研究機構化学反応創成研究拠点の運営体制を強化するため、同拠点に新たな役職として、エグゼクティブディレ クターを置くことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

■お知らせ

過半数代表候補者の決定

札幌キャンパス事業場(病院を除く。)における過半数代表候補者は、以下のとおり決定いたしました。

(総務企画部人事課厚生労務室)

| | | 職 | 種・系図 | 区分 | | | | 過半数代表候補者 | | | | |
|--------------|-------------------|-----|------|-----|-------------|--------|----|--------------------|----|----|----|-----------|
| | 文 | | | | | | 系 | (文学研究院) | 瀬名 | 占波 | 栄 | 潤 |
| 教 | 理 | 理 | 学 | 研 | 3 | E L | 院 | (理学研究院) | 谷 | 岡 | 勇下 | 前 |
| | | 工学研 | 开究院 | ・情幸 | B 科学 | 2研3 | 宅院 | (工学研究院) | 深 | 澤 | 達 | 矢 |
| | 系 | 上言 | 己以 | 外 | 0) | 理 | 系 | (農学研究院) | 東 | Щ | | 寛 |
| 員 | 医 | | | | | | 系 | (医学研究院) | 中 | 澤 | 祐 | _ |
| | 附置研究所・研究センター系 | | | | | | | (遺伝子病制御研究所) | 北 | 村 | 秀 | 光 |
| | | | | | | | | (工学系事務部) | 稲 | 葉 | 正 | 思 |
| 職 | 員 | (教 | 員 | を | 除 | < |) | (総務企画部) | 大 | 沢 | | 将 |
| | | | | | | | | (北方生物圏フィールド科学センター) | 持 | 田 | | 大 |
| 此 .仁. | 此 <i>作</i> 数 目 | | | | | | | (総務企画部) | 金 | 田 | 久 | 美 |
| 付江 | ·教員·契約·短時間勤務·嘱託職員 | | | | | 两百七月 | 既貝 | (遺伝子病制御研究所) | Щ | П | | 桂 |

■人事

令和2年2月1日付発令

| 新職名(発令事項) | 氏 | 名 | 旧職名(現職名) |
|---|---------|-------|---------------------------|
| 【教授】 創成研究機構化学反応創成研究拠点·大学院理学研究院教授 大学院理学研究院教授 | 石 森 坂 井 | 浩一郎 哲 | 大学院理学研究院教授 大学院理学研究院准教授 |

新任教授紹介

令和2年2月1日付



理学研究院教授に

哲 氏 坂井

数学部門数学分野

最終学歴

東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了(平成12年12月) 博士 (理学) (東京工業大学)

専門分野

確率論,統計力学

編集メモ

● 2月25日 (火)・26日 (水) に, 北 海道大学一般入試の個別学力検査等が 実施されました。2月21日(金)には 会場設営が行われ,会場の外では受験 生が緊張した面持ちで下見に訪れてい ました。



受験会場外の様子(写真は昨年の試験日)



2020.2.1 釧網本線 茅沼 (標茶町)

北の鉄道風景 83 丹頂が飛来する駅

釧路湿原の北端部,標茶町茅沼地域にある釧網本線の茅沼駅。丹頂が飛来する無人駅として広く知られている。昭和39年,当時の駅長が線路脇に餌場を設置,丹頂への給餌を始めたことが,この駅に丹頂が飛来する端緒となった。その後,丹頂への給餌は代々の駅長に引き継がれ,国鉄分割民営化の直前,昭和61年の晩秋に同駅が無人化された後も,今日に

至るまで地元の人々によって給餌が続けられている。 写真は茅沼駅を発車する観光列車「SL冬の湿原号」 である。同列車の発車と同時に、線路脇の餌場に居 た2羽の丹頂が飛び去っていった。

情報科学研究院 准教授 山本 学